

南三陸町庁舎建設検討委員会の検討まとまる



千葉澄郎会長、小野弘喜副会長が報告書を提出しました

報告書が提出されました

9月7日(木)、南三陸町庁舎建設検討委員会(千葉澄郎会長)から町長に対し、委員会での検討結果をまとめた報告書が提出されました。庁舎建設検討委員会は、役場庁舎の建設について、その可否を含め新町において検討するため、平成18年1月27日、町が設置したものです。委員の公募を経て、同年2月27日、13名(公募2名を含む)を委員として委嘱しました。以来、数度に渡って検討を重ねてきたものです。以下、報告書の全文を掲載します。

南三陸町庁舎建設検討に関する報告書

南三陸町庁舎建設検討委員会 平成18年9月

記

【庁舎整備の必要性】

現在の役場本庁舎(第1庁舎)の建物は、昭和32年の建築後既に49年を経過し、老朽化・狭隘化している。さらには、防災対策面での不安も指摘されているところである。

南三陸町庁舎建設検討委員会は、南三陸町の庁舎建設の可否を含む今後の庁舎整備の基本方針等について協議検討を行う場として設置され、平成18年2月に町長から委員が委嘱されました。その後これまで、町内各施設の現況視察や、財政状況について町当局から説明を受けるなどしながら、数度にわたる会議を通じて検討を重ねてきたところです。

今般、検討の結果として、下記のとおり報告するものです。

また、現在の庁舎のあり方として、駐車場が狭い、庁舎機能が複数施設に分散しており分かりにくく一箇所を用を足せない等、住民にとって不便で合理的でない部分も少なくなく、住民サービス向上の

○ 新庁舎建設に関する財源シミュレーション

設定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・事業費：20億円(用地5億円、建物15億円) ・地方債：一般単独事業債(合併特例事業) ・地方債利率：年利1.5%程度 ・償還条件：20年償還(うち3年据置) ・地方債基準単価：165,700円/㎡(鉄筋コンクリート造4階建以下)
建設時コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・事業費 20億円 ・地方債 11億5千万円 →必要一般財源等 8億5千万円…①(庁舎建設基金からの繰入金を含む。)
地方債償還コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・地方債 11億5千万円 ・償還額合計 13億5千万円(元利合計) ・交付税算入額 9億4千5百万円(償還額合計の70%) →必要一般財源 4億5百万円…②
必要一般財源の合計	①+②=12億5,500万円(交付税算入分を除く)

○ まちづくり住民意向調査の結果から

「南三陸町の今後の本庁舎整備の考え方についておたずねします。今後、10年を考えた場合、あなたの考えに近いものを1つ選び、番号を○で囲んでください。」(単位：%)

回答	町全体	志津川地区	戸倉地区	入谷地区	歌津地区
現在の庁舎は老朽化しているため、町民が利用しやすい場所に新たに整備すべきである。	14.5	11.3	15.8	14.3	18.5
本庁舎の整備は必要と考えるが、まずは、新町建設計画に盛り込まれた生活・産業・教育基盤等の施設整備を優先して行うべきである。	47.0	52.0	45.3	50.9	39.5
新たに庁舎を整備する必要はなく、現在の庁舎・総合支所の機能連携により、町民の利便性を確保すべきである。	34.0	32.5	36.7	27.7	36.9
その他	4.5	4.2	2.2	7.1	5.1